

愛知教育大学大学院 教育実践研究科



教職大学院 案内 2011

教職大学院は

高度専門職業人としての教員に求められる
高度な実践力・応用力を育成するための
教員養成分野における専門職大学院です。

Aichi University of Education
Graduate School of Practitioners
in Education

CONTENTS

本学教職大学院の概要	1
学長のことば	2
共通科目・専門科目	3
実習科目	5
教職実践応用領域	7
教職実践基礎領域	9
長期の履修形態	11
指導体制	13
入学試験・修学支援	15
修了報告書題目一覧	17
運営組織	18

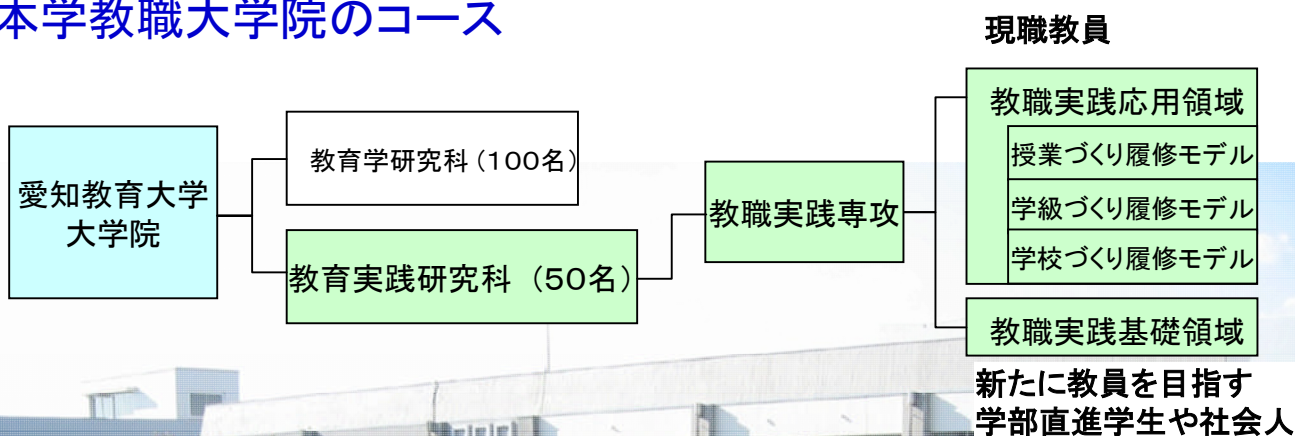
新たな学びの場、教職大学院

愛知教育大学教職大学院は、教育現場の抱える問題の多様化、複雑化、深刻化に対応するのに十分な専門的知識を獲得し、それを実践につなげることができる高度な実践的学びの場として、また、教師の多忙化、団塊の世代の大量退職・大量採用などによって、学校現場において困難になってきた「教師の技」の世代間継承を効率的に行うことができる場として、2008年に創設されました。

本学教職大学院の目的

本学教職大学院は、学校教育に関わる理論と実践の融合を基本とし、理論の応用並びに実践の理論化に関わる諸能力の修得によって実践的指導力を備えた教員を養成するとともに、一定の教職経験を有する現職教員に対しては、確かな指導理論と実践力・応用力を備え、指導的役割を果たし得る教員を養成することを目的としています。また、大学院を実践的なキャリアアップの場として位置付け、学校・地域及び教育関係諸機関との連携を活かしつつ、教師教育の更なる質的向上を図ります。

本学教職大学院のコース



愛知教育大学教職大学院への招待

2008年4月に発足した本学大学院教育実践研究科(通称:教職大学院)は、まったく新しい形の専門職大学院で、教員養成の改革モデルを創りだし、実現していく新制度として設置されました。子どもたちを取り巻く問題や課題が多様化する中で、教育の現場が問いかけている諸問題と真摯に向き合い、これからの教育の改革に貢献したいとの願いの下に本学独自のカリキュラムによるコースワークを設計しました。具体的には、学部直進の方が基礎的かつ実践的なハイレベルの指導力を身につけていく教職実践基礎領域、現職の先生がこれからのスクール・リーダーとしての高度の力量を開発・獲得していく教職実践応用領域、という二つの領域を設けています。現職教員の院生は、現任校に勤務しながらの専門的な学びの探究を、新たに教員をめざす院生は、連携協力校の実践に足を運ぶことで、メンター役の現職教員から恒常的に助言等を受け、教員としての実践力を育みます。

教職大学院のスタッフ一同、皆様の入学をお待ちしています。



愛知教育大学長
松田 正久

愛教大は教師の学びを 生涯にわたって支援します

本学教職大学院の特長

授業は原則 火・金・土曜日に開講

教職実践応用領域学生は職務に従事したまま、地元・学校現場を離れずに学習することができます。

教職実践基礎領域学生は授業の開講日以外にサポーターとして学校現場に入り、学校や児童生徒との触れ合い経験を積みみます。

多様な背景を持つ実務家教員と
研究者がT・Tで指導

共通科目では、研究的視点をもった実務研究者や地元の学校実践現場において指導的役割を果たしてきた実務家教員と研究者がT・Tで授業を行い、理論と実践の融合を図ります。

目的別に分化した実習

応用領域学生は、「課題実践実習」では現任校の課題解決を図り、学校全体へ学びを波及し、「メンター実習」では基礎領域学生とペアリングをし、協働的学習の場で相互的に教職への理解を深めます。基礎領域学生は「教師力向上実習Ⅰ」では授業力を、「教師力向上実習Ⅱ」では学級経営力の向上を意識的、集中的に図ります。

学校における今日的重要な課題を
テーマとした特別課題実習を設置

2008年度から2010年度までは「外国人児童生徒の指導に関わる学修」をテーマに実習を行いました。専門的知識の基礎を修得した後、学校見学・参加を行い、自らの実践力を高めるとともに、特に応用領域学生は現任校での学校全体としての取組みの検討を行います。

小学校免許取得コースの設置

本学教職大学院在学中に、併せて小学校教員免許状の取得も可能とするコースを設置しています。本コースの修業年限は3年です。(中学校もしくは高等学校の教員免許状を取得されている方に限ります。)

共通科目・専門科目

共通科目はすべてを教職実践応用領域と教職実践基礎領域の学生が共学します。専門科目と実習科目は各領域の目指す人材育成に合わせ、各領域・履修モデルの指定した科目を履修します。

共通科目

5領域にわたる10科目を設定し、すべてを教職実践応用領域と教職実践基礎領域のそれぞれの学生が協働して学ぶこととし、実際の授業場面では、討論や批評、グループ学習の場面を多く設定します。

科目の内容の設定としては、「教師の基本」をテーマに、**教職実践応用領域**にあつては、これまで自らの実践を省察する機会とするとともに、**教職実践基礎領域**にあつては基本を固めることを目的とし、知識や理解をアップ・トゥ・デートするべき重要な今日的課題を内容として取り上げています。

領域	授業科目名	単位
教育課程の編成・実施に関する領域	カリキュラムの開発と評価Ⅰ	2
	特色ある学校実践の研究	2
教科などの実践的な指導方法に関する領域	実践的授業研究Ⅰ	2
	授業づくりの内容と方法Ⅰ	2
生徒指導・教育相談に関する領域	問題行動の理解と生徒指導・相談活動の進め方	2
	青少年のキャリア発達と進路指導・キャリア教育の推進	2
	心の教育と道徳教育の推進	2
学級経営、学校経営に関する領域	学級経営ワークショップ	2
	自律する学校づくり	2
学校教育と教員の在り方に関する領域	協働する学校づくり	2

専門科目

教職実践応用領域は、学校現場全体の基本的枠組みを再確認する意味で共通科目を履修した後、自らの課題や所属する学校の課題に即して、「授業づくり」(カリキュラム開発・教科指導)、「学級づくり」(学級経営、生徒指導、進路指導、教育相談、道徳教育)、「学校づくり」(学校経営)の3つの履修モデルに分かれ、より専門的・実践的・具体的な解決方法の企画・立案や、それらを校内で指導するために必要な理論化の力量を獲得します。

教職実践基礎領域は、共通科目の学習の継続・発展として、教科指導と学級経営に両翼を伸ばすように、同時に、技能化・理論化の双方向に往還できる力量を形成するために、授業づくり、学級づくりから中核的科目である科目を各4科目必修として設定しています。

授業づくり履修モデル開設授業

学級づくり履修モデル開設授業

学校づくり履修モデル開設授業

領域	授業科目名	単位
教育課程の編成・実施に関する領域	実践的授業研究Ⅱ	2
	カリキュラムの構想と授業づくり	2
教科などの実践的な指導方法に関する領域	指導技術力の開発(学びを支える授業力)	2
	教材の深化と発展	2
	授業づくりの内容と方法Ⅱ	2
	教材開発演習	2
	教授方法の研究	2
生徒指導・教育相談に関する領域	問題行動対応演習	2
	進路指導・キャリア教育の実践	2
学級経営に関する領域	学級経営実践演習	2
	特別活動開発演習	2
学校教育と教員の在り方に関する領域	教育的コミュニケーション演習	2
	教育施策研究	2
	学校の法的責任	2
学校経営に関する領域	学校活性化に向けた組織改善実践演習	2
	教職員支援・研修体制開発実践演習	2
	修学支援体制づくり演習	2
	保護者との協働体制づくり実践演習	2
	特色ある学校づくり実践演習	2

共通科目「実践的授業研究Ⅰ」

授業の目標及び概要

教科全体に通ずる授業研究の理念・方法・構成・技術・評価について学び、教師に求められる授業力について実践的に検討・考察する。
(戦後教育観を超える授業研究、指導力の開発)

1. 授業研究と評価論についての基礎・基本を学ぶ。
2. 到達目標と評価規準・基準、学びの保障と授業研究の関係を学ぶ。
3. 教材・学習者を生かす授業研究・評価論について学ぶ。
4. 学習指導案の作成、模擬授業をとおして授業研究の課題を知る。
5. 実践事例の分析と考察をとおして、求められる授業力の要素・構造・評価方法論などについて、具体的な改善の観点を知り、実践に生かすことができるようになる。



模擬授業の様子

2010年度 公開授業 テーマと概要

2時限目: 模擬授業による実践モデル提案と検討 (基礎領域学生・その1)

詩歌を読む楽しさと方法の「習得・活用型」授業開発
—受信・読解型から発信・批評・読書力育成型への授業改革—

問題提起のポイント

なぜ、今、詩歌なのか？新学習指導要領(国語)では詩・短歌・俳句・随筆(エッセイ)等の文学的文章を全員に書かせ評価する必要が示されている(言語活動例の明示)。これは論理的な報告や、レポート作成・説明・プレゼンテーション能力育成と対比的に要求されている学力の一つである。

では、いったい何のための詩歌学習か？どんな学力を身に付けさせるのか？説明・報告・評論などとの読み方の違いは？読んだり書いたりした内容をどう評価したりかわらせたらいのか？模擬授業ではこうしたこれからの実践課題に大胆に挑戦している。

3時限目: 模擬授業による実践モデル提案と検討 (基礎領域学生・その2)

論理的に情報を読み解き、キーワードをメモ(記録)する基礎・基本学習—「確かに」伝えあい「豊かに」深めあう国語科習得型学力の授業開発(小学校4年想定)—

問題提起のポイント

なぜ・何のためにメモ・記録・要約などは必要なのか？新学習指導要領では、全教科・領域・活動の基本となる言語力(言語活動)としての論理的なレポート作成・記録・要約・説明・鑑賞・批評等の言語力の重要性が改めて強調されている。

ポイントは、受信から発信へ、交流・批評から習得・活用の定着への相互性、「学習・評価システムの開発」。「全員に」「楽しく基礎・基本学力(習得)」が身につけていない状態では、真の活用力、探究型学力の深化は期待できない。特に「全員に楽しい学習として」習得から活用(探究)へのスモールステップをいかに、子どもにも見えるように組み立てるかが重要である。

共通科目「問題行動の理解と・生徒指導・相談活動の進め方」

授業の目標及び概要

この授業は問題行動や生徒指導に関する学習と、フィールドワーク的手法の導入部分に相当する。授業の目標は、問題行動を児童生徒の全人的な発達段階の中に位置づけ、対応するための手法を身につけることである。

発達を総合的に理解するために、家庭や地域、マスメディアが伝える子ども・若者文化など、児童生徒の環境について考察を深める。また児童生徒が問題行動を起こすときには、必ず原因背景がある。ただ、それがすぐに分かることは少なく、児童生徒自身も意識しないままに、問題行動を起こしていることが多い。解決のために、問題行動が起きる、原因と背景についての理解を深める。最後に、問題行動の解決のために、学内連携とフィールドワークの手法を導入する。



グループ活動の様子

2010年度 公開授業 テーマと概要

3時限目: 解決志向アプローチの基礎

この授業では、カウンセリングマインドの基礎について学んできた。相手の話を受容し、傾聴するスキルに続いて、相手や状況の中に「解決の芽」を発見することで問題解決を導く「解決志向アプローチ」の手法を学ぶ。授業では、同アプローチによる質問や目標設定の方法を体験する。

4時限目: リフレーミング実習

物事をみる「枠組み(フレーム)」を取りかえることで、子ども(保護者)の持つ資質を引き出す「リフレーミング」は、解決志向アプローチのひとつの手法である。授業では、子どもや保護者の一見「短所」と思われるような特徴を、「長所」の形で読みかえるなど、リフレーミングの具体的な方法を体験する。

実習科目

本学教職大学院では、学校現場の要望や課題と、領域ごとの育成すべき人材像にあわせ、実習を目的別に分化しています。実習は、原則として実習校の勤務時間に合わせて行い、週に数回担当教員が巡回指導します。

領域	実習名	実習の目的
教職実践応用領域	他校種実習 1年後期・1単位	これまでの教職経験とは異なる校種(小学校・高等学校勤務者は中学校、中学校勤務者は小学校)で授業参観・授業参加し、小・中・高の連続性のあり方を、授業実践、学級経営さらには学校運営という観点から、検討・検証します。
	課題実践実習 2年前期・6単位	自らの課題を設定し、教職大学院で学んだ理論をもとに、課題解決のためのプランニングを行い、学校現場において実施検証を行うとともに、自らの学びをとおして現任校の課題解決に取り組みます。さらにこれを通じて真の理論と実践の融合を自らが行うことができる能力を育成します。
	メンター実習 2年後期・2単位	基礎領域学生とペアになり、基礎領域学生を指導することを通して、互いの協働的学習の場を創出し、同僚を支援する実践的な指導方法、コミュニケーション力、調整力を学ぶとともに、自らの指導を客観的に捉え省察する機会とします。
教職実践基礎領域	教師力向上実習	現職教員の一日に密着し、あらゆる場面における教師のしごとを理解します。さらに、一定期間責任をもって教育にあたることによって、授業以外の場面における教師としての力量についても向上させ、学校を支える一員としての心構えを育成し、責任感を高めます。
	I 2年前期・4単位	特に専門的理論、技術を実際の学級経営、生徒指導のなかで自らが実践し、さまざまな経験を得ることで教師としての指導力を高めます。
	II 2年後期・4単位	特に専門的理論、技術を実践のなかで有効に使い、教科指導におけるしっかりとした授業設計、展開、分析、評価の力量を高め、さらに教材開発力、単元開発力の基礎を育成します。
	III 2年後期・1単位	応用領域学生とペアになり、I、IIの実習での成果の上に立って、自らの今後の教師として取り組むべき課題をみつけます。
領域共通	特別課題実習 1年後期・1単位	学校において今日的な課題となっている事柄について、専門的知識の基礎を修得し、先進的な取り組みなどを行っている学校を定期的に訪問見学、授業参加することによって、課題への取り組みの方法、方策を理解し、自らの実践力を高めるとともに、学校全体としての今後の取り組みとして、授業実践、学級経営さらには学校運営という観点からの検討を行います。当面の課題は、「外国人児童・生徒指導に関わる学修」としています。
	多様なフィールド実習 2年夏期・1単位	学校現場以外の社会教育機関、病院、福祉施設、企業、NPOなどにおいて、教師の立場を離れて、OJTさらには、PBLを経験することで、視野を広げ、企画力、計画力を高め、多様で柔軟な人間関係のとり方を学ぶとともに、学校で生かせる経験・人的ネットワークを獲得し、さらには学校と地域との連携、地域貢献の在り方を考えます。

学校サポーター活動について

教職実践基礎領域では、実習に関連して1年後期から週2回程度「学校サポーター」の活動を開始します。「教師力向上実習 I・II」の目標は高く、その目標を達成するためには、実習校の児童生徒の実態と学校現場の状況に関する情報・知識など十分な準備が必要であり、こうしたものを実習で生かせる形で得るには、事前に実習校に参加することが最も効果のある方法です。実習の準備という性格上、単位化していません。

連携協力校について

本学では連携協力校を協力内容に基づき、①現任校(応用領域学生の現任校)、②協力校(研究指定、拠点校となっている学校で協定を結んだ学校)、③特別課題実習校(特別課題について研究指定拠点校となっている学校)と分けています。

現在、協力校及び特別課題実習校は計59校となっています。また、連携協力校に対しては、教職大学院の教員を学内研修などに係る講師として依頼があった場合については、研究協力と位置づけ、支援しています。

実習例

「メンター実習(教職実践応用領域/2単位)」・「教師力向上実習Ⅲ(教職実践基礎領域/1単位)」

9月～12月の内2週間、月曜日～金曜日の終日、現職教員の現任校においてペアで実習を行います。

・実習の主な内容

メンター実習	教師力向上実習Ⅲ
以下の内容を、ペアを組む基礎領域学生の実践に対する指導を中心に学修する。 ・授業に関する指導助言の在り方 ・授業カンファレンスの持ち方 ・生徒指導に関する指導の在り方 ・教職に対する理解の深化のための助言・支援の在り方 ・校内における支援体制の在り方	以下の内容を、ペアを組む応用領域学生からの指導を受けながら学修する。 ・学校、児童生徒の実態把握力の確認 ・授業力の確認 ・児童生徒理解の確認 ・学校運営への理解の確認 ・自己課題の設定とその手だて



・実習の進め方(実習例)

	朝	1限	2限	3限	4限	昼	5限	6限
1日目	挨拶 打合せ参加	随時、ペアを組む基礎領域学生に授業参観させたり授業実践させたりする。				給食清掃等 指導	1～4限と 同様	会議等参加
2日目	打合せ参加	教職員の1 日	教師の心構 え	授業準備の 指導	授業準備の 指導	給食清掃等 指導	児童・生徒 指導	本日のまと め
3日目	打合せ参加	随時、ペアを組む基礎領域学生に授業参観させたり授業実践させたりする。				給食清掃等 指導	1～4限と同様 会議等参加	
4日目	打合せ参加					給食清掃等 指導		
5日目	打合せ参加 挨拶	よい学級経 営とは	授業準備の 指導	授業参観・ 指導	授業の振り 返り	給食清掃等 指導	児童・生徒 指導	実習のまと め

「特別課題実習(応用A)(教職実践応用領域/1単位)」

「特別課題実習(基礎・応用B)(教職実践基礎領域/各1単位)」

10月中旬～11月上旬に2グループに分かれ、それぞれ週2日(火曜及び金曜日の終日)2週間、計4日間、連携協力校の内、今日的課題について学修ができる学校で行います。

・実習の主な内容

授業参観等をとおして、専門的知識、指導方法、校内の支援体制の在り方について学ぶ。



・実習の進め方(実習例)

		1限	2限	3限	4限	昼	5限	6限
1日目	挨拶 本日の予定 確認	校長講話 (学校教育 目標等)	教務主任講話 (本校の特性・ 実習内容)	授業参観	授業参観	昼食清掃等 指導	授業参観	研究協議 まとめ
2日目	本日の予定 確認	関係教員講話 (課題に関し て)	授業参加	授業参加	授業参加	昼食清掃等 指導	授業参加	研究協議 まとめ
3日目	本日の予定 確認	授業参加	授業参加	授業参加	授業参加	昼食清掃等 指導	授業参加	研究協議 まとめ
4日目	挨拶 本日の予定 確認	(実践準備)	授業実践	授業実践	授業実践	昼食清掃等 指導	校長講話 (期 待される 教 師像)	研究協議 まとめ

教職実践応用領域

教職実践応用領域は、現職教員を対象とし、これまでの教職経験の中で培ってきた実践的資質・力量をもとに、さらに個の専門性を高めるとともに、学校を変える推進者、さらにはミドル・リーダーとなるための資質・力量を育成することを目的とします。

「授業づくり履修モデル」

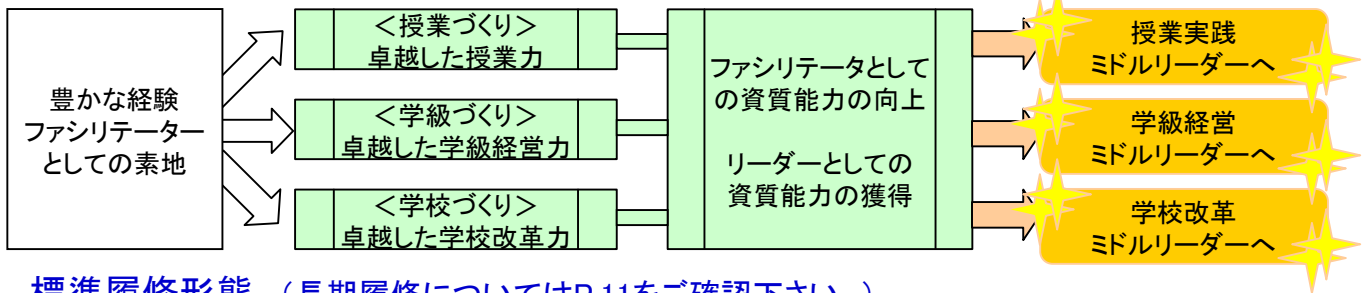
現代の教育諸課題に対応できる優れた実践的指導力を、具体的な授業と教材、評価と改善、カリキュラム検証と開発提案などの事例研究、模擬授業、討論、ワークショップなどによって段階的、実践的に育成、評価することを目的とします。

「学級づくり履修モデル」

学級経営分野、生徒指導分野、キャリア教育分野において、学校におけるリーダーシップを発揮し、様々な企画・運営を行えるレベルに到達することを目的とします。

「学校づくり履修モデル」

学校ですでに教務主任などの立場に立ってメンターとしての役割を果たしている教師を、日本の学校経営において適した経営パターンであると言われているミドル・アップ・ダウンの役割を果たすことができる真のミドル・リーダーに養成することを目的とします。



標準履修形態（長期履修についてはP.11をご確認下さい。）

学年	月	大学での学修	学校などでの実習	学修支援体制	
1年	4~7月	共通7科目14単位		修学オリエンテーション	領域指導担当者による 個別面談指導 サポート・オフィスによる 面談指導
	夏期集中	共通3科目6単位			
	9~2月	(実習事前指導) 専門8科目16単位 (実習事後指導)	他校種実習 [週2日×2週間] 1単位 特別課題実習(応用A) [週2日×2週間] 1単位	前期成績発表 後期履修指導 実習巡回指導	領域指導担当者による 個別面談指導 領域指導担当者による 個別指導及び 2年次実習に関する指導
	3月			課題実践計画の研究 中間報告会 後期成績発表	
2年	4~7月	課題実践研究Ⅰ 1単位	課題実践実習 [約1学期間]6単位	立案した計画に基づいて、 現任校で計画を実施し、 その経過を記録する。 記録をもとに、計画を検討し、 改善を図る。	大学教員が実習を参観、 カンファレンスを行う。また、 現任校の教職員とともに 研究会を開催する。
	夏期集中		多様なフィールド実習 [1週間]1単位		
	9~2月	課題実践研究Ⅱ 1単位	メンター実習 [2週間]2単位	課題実践実習における 実践的研究の成果を整理し、 相対化、一般化、理論化して、 学校全体の改善に寄与できる ものにする。	大学において、大学教員、 学生とともに、研究会などを 通して研究を進める。
	3月			課題研究報告提出 修了発表会	課題研究報告とは ①自らの課題への取り組みとその成果を まとめたもの ②獲得した個の実践知を理論化したもの ③現任校の改善プランをまとめたもの

課題研究報告作成のプロセス

課題研究報告とは

- ①自らの課題への取り組みとその成果をまとめたもの
- ②獲得した個の実践知を理論化したもの
- ③現任校の改善プランをまとめたもの

週間の標準履修イメージ 1年目（2年目は学校での実習を中心に学修します。）

	月	火	水	木	金	土
昼間	現職勤務	大学における 授業日	現職勤務	現職勤務	大学における 授業日	
夜間		個別指導			個別指導	

※ほか、夏期長期休業期間中に集中講義を行います。

修業年限

標準 : 2年

長期履修 : 科目は土曜日だけの履修であっても、3年間修学すれば所定の単位が修得できます。

実習は平日に行います。

修了に必要な単位

共通科目	専門科目	学校における実習	多様なフィールド実習※	合計
20単位(10科目)	16単位(9科目)	10単位(4科目)	1単位	47単位

※ 学校現場以外の病院、福祉施設、企業、NPOなどにおける実習

修了要件

大学における授業と「課題実践実習」を中心として、「課題実践計画の研究」、「課題実践研究Ⅰ」、「課題実践研究Ⅱ」をもとに「課題実践報告」を作成し、単位数、必修科目の取得を確認のうえ、修了報告を審査します。

修了生のことば

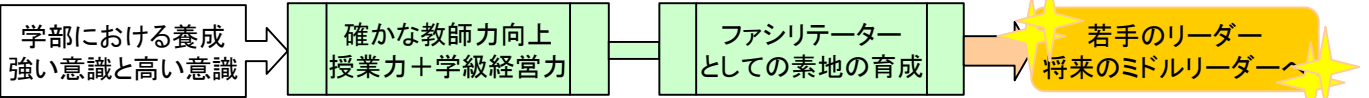


教職大学院での学びは、まさに「理論と実践の融合」の時間でした。私は、今まで自分の感覚と周囲の先輩教師の模倣に頼って子どもたちを指導してきました。しかし、そこには何の根拠もなかったのです。教職大学院でのT・Tによる実践・理論の両面からの手厚い指導はもとより、日々現場に立つ仲間や学部直進の若い学生とのコミュニケーションも、すべてが刺激的で新しい発見の連続でした。今は、理論的な裏付けをもち、今まで以上に自信をもって子どもたちの前に立つことができるようになりました。今後も、この2年間で学んだこと、学び続ける姿勢を忘れずに、子どもたち・保護者・教師など学校に関わるすべての人の笑顔があふれる学校作りを目指していきたいと思います。

平成21年度教職実践応用領域学校づくり履修モデル修了生
吉田 俊介

教職実践基礎領域

教職実践基礎領域は、学部直進者や社会人といった新人で教職に就こうとする者を対象とし、学部レベルで修得したことをもとに、多様な学校環境に応じた実践ができる教師の育成をめざし、教師に求められるすべての分野にわたって総合的に修学することを目的とします。



標準履修形態（長期履修、小学校教員免許取得コースについてはP. 11～12をご確認下さい。）

学年	月	大学での学修	学校などでの実習	学修支援体制
1年	4～7月	共通7科目14単位		修学オリエンテーション 実習校の選定 領域指導担当者による個別面談指導 サポート・オフィスによる面談指導
	夏期集中	共通3科目6単位		
	9～2月	(実習事前指導) 専門8科目16単位 (実習事後指導)	特別課題実習(基礎) [週2日×2週間] 1単位 特別課題実習(応用B) [週2日×2週間] 1単位	前期成績発表 後期履修指導 実習巡回指導 学校サポーター(週2日約1年6ヶ月) 領域指導担当者による個別面談指導 領域指導担当者による個別指導及び2年次実習に関する指導
	3月			後期成績発表
2年	4～7月	(実習事前指導)		学校サポーターとして得た情報をもとに実習校の現状に合わせた指導案などの準備を行う。 大学において、実習指導の準備を進める。
			教師力向上実習Ⅰ [4週間]4単位	日々の実践の記録をとり、その日の成果と明日の課題を整理する。 大学教員が実習を参観、カンファレンスを行う。
		(実習事後指導)		記録をもとに、得られた成果を整理し、次の課題を発見する。 大学において、実習指導の準備を進める。
	夏期集中		多様なフィールド実習 [1週間]1単位	
	9～2月	(実習事前指導)		教師力向上実習Ⅰで得られた反省と情報をもとに指導案などの準備を行う。 大学において、実習指導の準備を進める。
			教師力向上実習Ⅱ [4週間]4単位	日々の実践の記録をとり、その日の成果と明日の課題を整理する。 大学教員が実習を参観、カンファレンスを行う。
		(実習事後指導)		記録をもとに、得られた成果を整理し、今後の課題を発見し、取り組み方を検討する。 大学において、実習指導の準備を進める。
		(実習事前指導)		教師力向上実習Ⅰ・Ⅱで培われた資質能力をもとに、異なる学校現場への対応を図る。 大学において、実習指導の準備を進める。
		教師力向上実習Ⅲ [1週間]1単位	日々の実践の記録をとり、現職教員との検討を図る。 大学教員が実習を参観、カンファレンスを行う。	
	(実習事後指導)		記録をもとに、得られた成果を整理し、今後の課題の検討をさらに進め、取り組み方を追求する。 大学において、実習指導の準備を進める。	
3月			実習ポートフォリオ報告提出 修了発表会	

実習ポートフォリオ報告とは

- ①各実習における記録、指導案、それぞれに対する省察をまとめたもの
- ②各実習で得た課題に対する研究成果をまとめたもの
- ③新任教員として取り組むべき課題とその方策をまとめたもの

実習ポートフォリオ報告作成のプロセス

週間の標準履修イメージ 1年目（2年目は学校での実習を中心に学修します。）

	月	火	水	木	金	土
昼間	学校 サポーター	大学における 授業日		学校 サポーター	大学における 授業日	
夜間		個別指導			個別指導	

※ほか、夏期長期休業期間中に集中講義を行います。

修業年限

標準 : 2年

長期履修 : 科目は土曜日だけの履修であっても、3年間修学すれば所定の単位が修得できます。
実習は平日に行います。

小学校教員 : 本学教職大学院に在籍中に併せて小学校教員免許状の取得も可能とするコースです。

免許状取得コース : 本コースの修業年限は3年です。1年目は本学学部において開設されている小学校教員免許状取得に必要な科目の取得に専念します。

修了に必要な単位

共通科目	専門科目	学校における実習	多様なフィールド実習※	合計
20単位(10科目)	16単位(8科目)	10単位(4科目)	1単位	47単位

※ 学校現場以外の病院、福祉施設、企業、NPOなどにおける実習

修了要件

大学における授業と各実習の事前・事後指導、実習の成果をもとに「**実習ポートフォリオ報告**」を作成し、単位数、必修科目の取得を確認のうえ、修了報告を審査します。

修了生のことば



「楽しくわかりやすい、真の学力が身につく国語の授業がしたい」という思いで私は入学しました。発問・子どもの発言の生かし方・評価等、最先端の理論と実践の融合が研究テーマです。教職大学院には優れた現場の先生方と共に学び合う環境があり、自分の課題に実践的に取り組むことができます。授業研究だけでなく、学校経営や学級経営の方法等を専門的に、具体的に学べることも魅力です。誇りと自信、そして現代の教育課題に対応できる実践的な指導力を備えた教師を目指しています。

平成21年度教職実践基礎領域修了生
岡田 智

長期の履修形態

現職教員、社会人などにおいては、職場などの事情により、ウィークデイに、大学で学修することが困難な場合も想定されるため、科目は土曜日だけの履修であっても、3年間修業すれば単位が修得できるように制度設計、時間割設定を行っています。

長期履修(教職実践応用領域)

学年	月	大学での学修(土曜)	学校などでの実習(平日)
1年	4~7月	共通4科目8単位	
	夏期集中	共通1科目2単位	
	9~2月	専門4科目8単位	他校種実習 [週2日×2週間]
2年	4~7月	共通3科目6単位	
	夏期集中	共通2科目4単位	
	9~2月	専門3科目6単位	特別課題実習(応用A) [週2日×2週間]
3年	4~7月	課題実践研究Ⅰ	課題実践実習 [約1学期間]
	夏期集中		多様なフィールド実習 [1週間]
	9~2月	課題実践研究Ⅱ	メンター実習 [2週間]

長期履修(教職実践基礎領域)

学年	月	大学での学修(土曜)	学校などでの実習(平日)
1年	4~7月	共通4科目8単位	
	夏期集中	共通1科目2単位	
	9~2月	専門4科目8単位	
2年	4~7月	共通3科目6単位	
	夏期集中	共通2科目4単位	
	9~2月	専門4科目8単位	特別課題実習(基礎) [週2日×2週間]
3年	4~7月	実習の事前指導・事後指導	教師力向上実習Ⅰ [4週間]
	夏期集中		多様なフィールド実習 [1週間]
	9~2月	実習の事前指導・事後指導	教師力向上実習Ⅱ [4週間] 教師力向上実習Ⅲ [1週間]

週間の履修イメージ 1・2年目 (3年目は学校での実習を中心に平日に学修します。)

	月	火	水	木	金	土
昼間	現職勤務 企業勤務等					大学における 授業日
夜間						個別指導

6年一貫教員養成コース

6年一貫教員養成コースは、学部4年間と大学院の2年間を一貫させる進学コースで、2006年4月に設置され、2010年度から教職大学院に進学するコースが加わりました。公募対象は学部の2年生で、大学院の入学金は徴収しません。本コースは

所属専攻を超えて学びあう履修を基本とし、海外の学術交流校での授業体験、NPO等との協力による教材開発など、通常カリキュラムでは得難い学修機会を用意しています。学生が主体的に参加し企画運営することもできるように、本コース担当教員が支援しています。4年次には大学院の授業の一部を先行して受講できます。

小学校教員免許取得コース(長期在学コース)

本学教職大学院における小学校教員免許取得コースでは、1年目は小学校教員免許取得に必要な科目の学修に専念し、2年目からは教職大学院(教職実践基礎領域)の標準履修1年目の科目の学修を開始します。2年目の前期は、小学校教員免許取得必要科目の学修と両方を行い、小学校教員免許取得必要科目の履修を終えます。後期は、小学校教員免許取得に必要な「教育実習」を行います。3年目は、教職大学院における学校実習を行います。

学年	月	学部での小学校教員免許取得のための学修	教職大学院での学修	学校などでの実習
1年	4~7月	科目履修前期18単位 後期17単位		
	夏期集中			
	9~2月			
2年	4~7月	科目履修4科目4単位	共通7科目14単位	
	夏期集中		共通3科目 6単位	
	9~2月	科目履修2科目3単位 教育実習[4週間]	専門8科目16単位	特別課題実習(基礎) [週2日×2週間]
3年	4~7月		実習の事前指導・事後指導	教師力向上実習Ⅰ [4週間]
	夏期集中			多様なフィールド実習 [1週間]
	9~2月		実習の事前指導・事後指導	教師力向上実習Ⅱ [4週間] 教師力向上実習Ⅲ [1週間]



指導体制

理論と実践の融合を図る観点から9名の実務家教員を配置し、研究者とT・Tで授業を行い、教職大学院のモデルとなる教育・指導体制で臨みます。



教授
佐藤 洋一

授業づくり
専門分野: 授業研究・評価論

言語教育(国語)を中核にした「実践的な授業研究論・評価論・教育技術論」が専門。学びの楽しさと系統性、全教科の基盤＝言語能力の基礎・基本、論理的なコミュニケーション、情報リテラシー等を特に重視している。



教授
神谷 孝男

学級づくり
専門分野: キャリア教育

小学生をはじめ青少年一人ひとりが、「生きる力」をはぐくみ、将来の生活や人生に、自分なりの夢を持って、よりよく生きられるようなキャリア教育やガイダンス、相談活動の在り方などを実践的に研究しています。



教授
志水 廣

授業づくり
専門分野: 数学教育学

これまで、算数・数学の授業づくりを研究し、また、現職教員へのコンサルティング(授業診断、示範授業)をしてきました。教職大学院では、ノウハウを皆さんに還元するとともに、新しい授業づくりについて考えていきます。



准教授
川北 稔

学級づくり
専門分野: 教育社会学

教職大学院の授業は、多彩な経験を持つ教員、地域で活躍する「子どもの味方」と一緒に、ライブ感覚で展開します。学校の内側・外側から子どもや家族の現実を理解し、子どもに寄り添う教師をめざしていきます。



教授(実務家)
中妻 雅彦

授業づくり
専門分野: 教育方法

東京都で、長年、小学校教員を勤めてきました。学校の校内研究や授業研究を進めながら、同僚とともに学校を創っていきける力をつけるための「教育実践の学」を、学生の皆さんと一緒に考えましょう。



准教授(実務家)
鈴木 健二

学級づくり
専門分野: 学級経営・道徳教育

3月まで宮崎県の小学校で校長をしていました。残りの人生を、「上機嫌・情熱・授業力」の三拍子そろった教師を育てる仕事にかけてみたいと考え、教職大学院にやってきました。授業では、子どもを育てる学級経営の技法や道徳の教材開発に挑戦していく予定です。



准教授(実務家)
萩原 孝

授業づくり
専門分野: 教科教育(社会科)

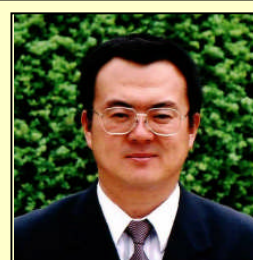
愛知県の公立小中学校の教員、教育委員会の指導主事を経て、2011年度より教職大学院で授業づくりコースを担当しています。専門は社会科ですが、教科教育全般における「楽しい授業」「力のつく授業」について、院生のみなさんとともに考えていきたいと思えます。



准教授(実務家)
大矢 忠史

学級づくり
専門分野: 学級経営

名古屋市立の中学校で勤務してきました。また、名古屋市教育センターで5年間勤務し、初任者研修会等を担当してきました。教育現場の課題をふまえ、よりよい学級づくりができるように考えていきたいと思えます。



特任准教授(実務家)
山本 武志

授業づくり
専門分野: 教科とカリキュラム研究

附属岡崎中学校で勤務して7年目になります。理科や総合的な学習を中心に授業実践をし、生きる力を高めることをねらいとした「生活教育」の研究に取り組んできました。みなさんと一緒に学んでいきたいと思えます。



特任教授(実務家)
萬屋 育子

学級づくり
専門分野: 児童福祉

愛知県の児童相談所で27年、福祉事務所で11年勤務しました。様々な事情がある子どもやその両親、家族と関わってきました。関わり方次第で子どもも大人も変わる、そして私も。「生きる力を発掘し、育む関わり方」を現場の先生、先生予備軍の若い人と一緒に考えていきたいです。



准教授
添田 久美子

学校づくり
専門分野:教育制度

「法律や制度は管理職しか関係ないよ」なんて言うのは古い時代の話です。学校づくり関連科目では、「学校ってどうやって動いているのだろうか」という素朴な疑問から始まって、「信頼される学校をつくる!」という決心が生まれるまでサポートします。みんなで学校をつくりましょう。



教授
船尾 日出志

授業づくり
専門分野:教科教育研究

授業づくりコースを担当しています。教員歴34年です。フレーベルは教師に必要なのは子どもをみること、母親から学ぶことだと言っています。子どもとその保護者から学ぶという姿勢は重要だと思えます。



特任教授(実務家)
恒川 武久

学校づくり
専門分野:学校経営

校長を複数校勤める中、尾張小中学校長会長並びに尾張教育研究会会長をも務めていました。愛知県教育委員会指導主事及び教育事務所次長等の行政経験と現場の校長として実務的経験を生かした授業に取り組みたいと思います。



教授
吉田 淳

授業づくり
専門分野:教科とカリキュラム研究

これまでの研究では理科を中心に小、中学校のあり方を検討してきました。学習指導要領を基本としながら学校の特長を生かすカリキュラムとして工夫することが求められています。教職大学院では教科間の関係や教科の持つ特性を大切にしたいカリキュラムを検討します。



特任教授(実務家)
山田 久義

学校づくり
専門分野:学校経営

名古屋市立八事東小学校・名北小学校・有松小学校で各3年間校長として、また、名古屋市教育委員会指導室に2年間勤務しました。教育現場や教育委員会勤務の経験を学校づくりに生かしていきたいと思えます。



教授
宮川 秀俊

授業づくり
専門分野:教科教育研究

専門は教科教育です。教材は、すべての教科に共通な面と、教科独自の面とがあります。「教材とは何か」、「よい教材とは何か」、「どのように教材を生かすか」など、基本的なところから考えていきましょう。



特任教授(実務家)
白井 正康

学校づくり
専門分野:学校経営

豊橋市立新川小学校、幸小学校の校長として、新しい時代に即した学校経営の在り方について研究実践を深めてきました。また三河教育研究会長として今日的課題への対応をはじめ、豊橋市教委学校教育課長等の教育行政経験、附属岡崎中学校教官時代の教科研究(社会科)等の経験を生かし、現場が求める質の高い教員や学校づくりをサポートします。



教授
山田 綾

授業づくり
専門分野:教育方法

教職大学院と教育学部・既設大学院を兼任させていただきます。専門分野は、教育方法学と教科教育(家庭科)です。授業は、「カリキュラム開発と評価」を担当します。院生の皆さんと理論的・実践的検討ができればと思います。



教授
藤井 啓之

学級づくり
専門分野:教育方法

社会と子どもの変化に即した教育方法について研究しています。受講者各々の経験と知恵を交流し合いながら、手や体を使った授業をコンセプトにしています。少しでも実践を理論的にサポートできれば幸いです。

多様な背景を持つ実務家教員が指導します。

実務経験者

教職経験が30年程度あり、さらに自らの高い実践力を研究的視点から相対化し、発表している者を全国公募し、採用。

実務家教員

交流人事による指導主事経験者。愛知県及び名古屋市教育委員会と交流協定を結び、指導的役割を果たしている現任者を任用。

本学附属学校教員

本学附属学校勤務の教員から指導的役割を果たしている現任者を特任として任用。

司法福祉実務家

司法福祉の現場ですぐれた実践を行ってきた者を、特任として任用。

校長経験者

すぐれた学校経営を行ってきた者を、特任として任用。

入学試験・修学支援

※詳細については、学生募集要項で確認してください。

本学教職大学院のアドミッションポリシーは①教職への熱意、②高い人権意識を持っていること、③バランスが取れた反省的思考とポジティブ思考ができること、④(新人)教職・教科・学級経営についての確かな基礎的知識、⑤(現職教員)豊富な実践経験です。

入学資格要件

- (1) 教職実践応用領域・・・現職教員及び教育関係諸機関に常勤職員として在籍している者で、常勤として5年以上の経験を有する者。
- (2) 教職実践基礎領域・・・小、中、高のいずれかの一種免許状を有する者、もしくは入学時まで取得見込みの者。

選抜方法

○印は試験科目。研究計画は試験科目ではないが配点対象です。

	教職実践基礎領域			教職実践応用領域	備考	
	学部直進者(推薦)※	学部直進者(一般)	社会人			現職教員
			一般入試	特例措置※		
学力検査		○ 3教科①②③ (120分)	○ ①のみ (60分)		①教職教養に関する科目 ②教科教育に関する科目 ③指導案作成に関する科目	
小論文	○ 小論文Ⅰ (60分)	○ 小論文Ⅰ (60分)	○ 小論文Ⅱ (80分)	○ 小論文Ⅲ (60分)		
研究計画	研究計画Ⅰ (出願時提出)	研究計画Ⅰ (出願時提出)	研究計画Ⅱ (出願時提出)	研究計画Ⅲ (出願時提出)	I(字数1,000字～1,200字程度) ①本大学院受験の志望動機 ②大学学部での研究・卒論のテーマ、内容と意義 ③入学後の実践研究課題と方法 II(字数1,000字～1,200字程度) ①本大学院受験の志望動機 ②社会人としての社会的活動から学んだこと、生かしたいこと ③入学後の実践研究課題と方法 III(字数2,000字～2,500字程度) ①これまでの実践・研究成果 ②現任校・児童生徒の実態と課題 ③本学入学後の実践研究課題 ④課題に取り組む方策 ⑤現時点で希望する履修モデル	
プレゼンテーション	○ (15分程度)				①受験にあたっての抱負 ②学校のさまざまな教育活動の一場面を捉えて、与えられた課題に対して考えや対応を答える。	

※ 推薦入試は前期募集のみ実施予定です。

※ 社会人特例措置・・・出願時において大学卒業後5年以上経過し、特例措置受験を希望する者

愛知県公立学校教員採用試験合格者における大学院進学による採用辞退者に対する特別選考について

愛知県公立学校教員採用試験に「合格」した者が、大学院・教職大学院に進学、または在学を理由として教員の採用を辞退する場合について、所定の手続きを経ることにより修了予定年度に行う採用試験において同一区分・教科で受験する場合に限り、第2次試験の口述試験(集団討議及び個人面接)で選考される特別選考があります。なお、この特別選考の詳細については、「教員採用試験受験案内」を確認の上、愛知県教育委員会にお問い合わせ願います。※上記特別選考は、2年間又は3年間で大学院を修了する見込みの学生が対象となります。従って、長期履修学生(修業年限4年)は特別選考の対象外となります。

名古屋市公立学校教員採用試験合格者における大学院在学による採用辞退者に対する特別措置について

名古屋市公立学校教員採用試験に「合格」した者が、大学院・教職大学院に引き続き次年度も在学することを理由として教員の採用を辞退する場合について、所定の手続きを経ることにより次年度に行う採用試験において同一区分・教科で受験する場合に限り、第2次試験の個人面接のみで選考される特別措置があります。なお、この特別措置の詳細については、「教員採用試験受験要項」を確認の上、名古屋市教育委員会にお問い合わせ願います。※上記特別措置は、小学校教員または中学校教員の区分で「合格」した学生が対象となります。※愛知県公立学校教員採用試験の大学院・教職大学院に進学または在学を理由とした特別選考と異なり、在学者を対象とした特別措置となります。

入学料・授業料

入学料 282,000円

授業料(前期分) 267,900円(予定) 年額 535,800円(予定)

入学試験実施状況

(人)

	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
2008年度	50	37	37	27	23
2009年度	50	52	52	40	33
2010年度	50	57	57	51	45
2011年度	50	54	54	43	35

奨学制度

(1) 日本学生支援機構奨学生(留学生を除く)

制度の概要

種別	貸与月額	返済条件	貸与期間	備考
第一種奨学金	50,000円 又は 88,000円	無利子貸与	標準修業年限が 修了する月 (24月を上限)	併用貸与もできます。
第二種奨学金	5、8、10、13、15万円 から選択	有利子貸与	学則で定める長期 履修を含む修業 年限の修了月	

※ 第1学年入学者で条件を満たす場合には、入学時特別増額貸与(有利子貸与)を増額して貸与します。
(金額は、10、20、30、40、50万円から選択)

(2) その他の奨学制度

財団、信託銀行奨学基金等件数は少なく採択も容易でないですが、2月から5月にかけて募集しています。
いずれも掲示等により案内します。

取得可能な専修免許状について

教員職員免許法別表第1、別表第2に基づく1種免許状取得者が、修士の学位を得るとともに、大学が定めた免許に該当する科目を24単位以上大学院で修得することによって当該1種免許状に対応する専修免許状の所要資格を得ることができます。なお、本学教職大学院で取得できる教育職員免許状の種類は以下のとおりです。

(1) 教職大学院で取得可能な教育職員免許状の種類

・小学校教諭専修

・中学校教諭専修

〔国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、宗教〕

・高等学校教諭専修

〔国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、商船、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、宗教〕

(2) 分野名称

専修免許状には、大学院での専攻名に加えて当該分野名称(教職実践学)が記載されます。

修了報告書題目一覧

研究成果については、関係教育委員会、現任校校長等参加の「中間報告会」「修了発表会」で発表、意見交換を行います。

2009年度・2010年度修了生の修了報告書題目 教職実践基礎領域(実習ポートフォリオ)

ダイヤモンドランキングを活用した意思決定型授業 －公民的資質をはぐくむために－	「論理的表現力」を育てる国語科授業・評価の開発 －中学校での授業実践の省察を中心として－
生活経験や読書力に結びつく「活用」を重視した国語科授業の開発 －中学校での実践・省察・提案を中心に－	話し合い活動を重視した授業開発 －小学校4年「低地のくらし」の学習を中心に－
生徒が主体的に取り組む体育授業の研究 ～到達目標を明確にし、見直しをもって学習を進める授業の構築を通して～	算数的活動を生かした授業展開 ～比例教材を中心として～
音楽を取り入れたあたたかい学級づくり －子どもたちが安心感をもって表現する学級をめざして－	学級通信を活用したキャリア教育の実践 －「自分の夢」と「身近な大人の夢調べ」を題材として－
中学校における自主的な話し合い活動をめざして －人間関係づくりと段階的話し合い学習を通じて－	豊かなつながりのある学級づくり －つながる力を育む生活・教科指導のありかた－
互いの良さを伝え合う「読書活動(読書力)」の開発 －小学校・授業実践と省察－	学ぶ意欲を高める授業・学級づくり －中学校での実践・省察を通して－
子ども全員が参加できる授業の工夫 －一斉指導・個別指導を工夫して－	「言語活動の充実」を軸にした学級・授業づくり開発 －小学校での実践と省察から－

教職実践応用領域(課題研究報告)

言語活動を中心に据えた、表現力を高める算数指導	理科における「活用型」学習のとらえ方とその指導事例 －「科学的リテラシー」をはぐくむ授業のあり方－
学ぶ楽しさと、確かな学力(習得・活用)を身につける中学校理科の授業開発 －言語力を重視した「運動と力」(中学校3年)の実践を例に－	児童の協調性と主体性を育てる学級づくりをめざして －ソーシャルスキル教育を通して－
学級担任と児童、児童同士の関係を改善し、よりよい学級を築く －児童一人一人の思いを理解するための実態調査を生かしながら－	自己有用感をもった児童の育成 －自他のよさを認め合い・尊ぶ活動を通して－
人間関係形成能力の育成を目指した学級活動の研究 －異年齢集団による交流活動と同年齢集団による交流活動を通じて－	生徒の確かな学力の育成をめざした授業改善体制の在り方
公立学校における外国人児童への支援のあり方	ICT活用による授業力向上の推進
温かい雰囲気の学校づくり －小学校における生徒指導の在り方－	地域とかかわり 地域に生きる生徒の育成 －地域貢献活動を通じて－
授業力の向上をめざした校内研修のあり方	学校における危機管理と安全対策
笑顔あふれる学校づくり －学校内外の環境の変化を踏まえたスキルアップ研修会(校内若手研修会)の実施を通して－	生徒にとって「心の居場所」となる学級をめざして －リーダーの育成を通して－
「思考力・判断力」を高め合う社会科授業づくり －言語活動を重視した単元構想モデルとその指導事例－	自分の思いや考えをもち、「伝え合う力」を育成する単元づくり －国語科における評価や指導の工夫、学びの系統性を考えて－
かかわりをもち、主体的に創造活動の喜びを味わえる美術科の指導 －プロジェクトA「教材開発プロジェクト」を成功させる!!の実践を通して－	技術科教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究 －グループ学習を通しての、人間関係形成能力の伸長－
「科学的リテラシー」を身につけることにつながる授業のあり方 －基礎・基本を大切に、見直しをもって主体的に追究する児童を育てる理科学習を通して－	聴く力を生かした歌唱指導 ～豊かな音楽性と表現力を育む音楽科授業をめざして～
いきいきと運動する児童の育成 ～基礎・基本の技能の定着と仲間とかかわり合いを中心に～	あたたかな人間関係を育む学級づくりの在り方 －日常生活における共通目標の実現を目指す活動を通して－
他者と共によりよく生きる子どもを育てる学級づくりの研究 －他者とかかわりをもたせた系統的な体験活動を通して－	自分自身を大切に、他者を思いやることのできる学級づくりをめざして －他者とかかわり、自分を見つめる活動を通して－
教師力の向上を基盤にした組織的な生徒指導	協働体制による道徳教育の推進
学校改善に生かす効果的な学校評価の進め方 ～学校評価を生かした学校組織の活性化を目指して～	学校を核とした地域ぐるみの教育システムの構築 ～「地域教育ボランティア制度」の立ち上げ、体制づくりを通して～
教師と生徒・保護者とが互いの信頼関係を高められる学校を目指して ～校内連携システムの構築と校内研修体制の確立～	

運営組織

教職大学院サポート・オフィス

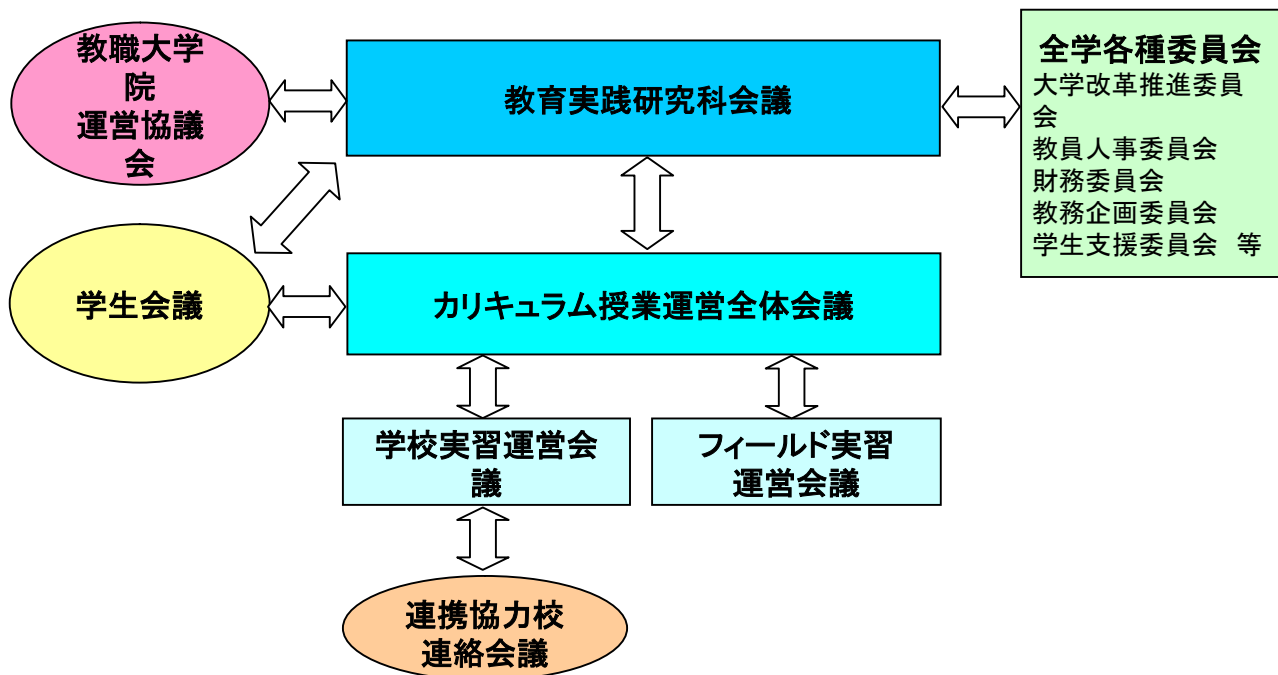
主な業務内容

- ①連携協力校、地域との連絡・調整
- ②連携協力校、フィールドと学生の課題のマッチング
- ③情報の収集・管理・発信
- ④履修相談カウンセリング

スタッフ

- ①室長 教育実践研究科会議議長
- ②教員 実務家教員(兼任)、教員(兼務)
- ③事務 事務局関係各課の職員(兼任)

運営組織



教職大学院運営協議会

学長、理事、学長補佐、附属学校部長、事務局長、専任教員、並びに教育委員会、連携協力校、現職教員学生の現任校長などにも参加いただき、教育研究の成果を審議し、評価します。

学生会議

教職大学院在籍学生で構成する自治的組織で、授業アンケート、施設設備の要望などを行います。

学校実習運営会議

学校関係実務家教員と学校実習ごとの担当者によって構成し、実習の年間計画、実習要件の判定、連携協力校との調整、訪問計画、実習の評価などについて話し合い決定します。

連携協力校連絡会議

学校における実習に関する調整、検討・改善を図るための会議です。また、実習に向けて授業の分野・内容が適切に設定され、適切に運営されているかについて、ご意見をいただきます。

教育実践研究科会議

専任教員・みなし専任教員の全員をもって構成され、①教職大学院の運営に関する事項、②教職大学院の専任教員の人事に関する事項、③教職大学院の教学に関する事項、④学生の入学・修了の判定に関する事項、⑤その他教職大学院の実務的な運営に関する事項等について審議し、決定します。

カリキュラム授業運営全体会議

教職大学院学内関係者(専任、みなし専任、兼担)で構成し、科目、実習すべてにわたるカリキュラム、授業の運営について審議し、決定します。

フィールド実習運営会議

連携機関関係者と「多様なフィールド実習」担当者によって構成し、実習の年間計画、実習要件の判定、連携機関との調整、訪問計画、実習の評価などについて審議し、決定します。